User Report ユーザー レポート

ゼロ
0の証明

個人

静かな祈りと、一台の装置
ADHDの息子を信じ、共に見守る母の物語

窓から差し込む柔らかな午後の光の中で、お母様はぽつりぽつりと、大切な記憶を紐解くように話し始めました。その声は、寄せては返す波のように優しく、時に迷い、時に決意を秘めながら、静かに流れていきます。

ご利用機器

カメラ付き
アルコールインターロック装置

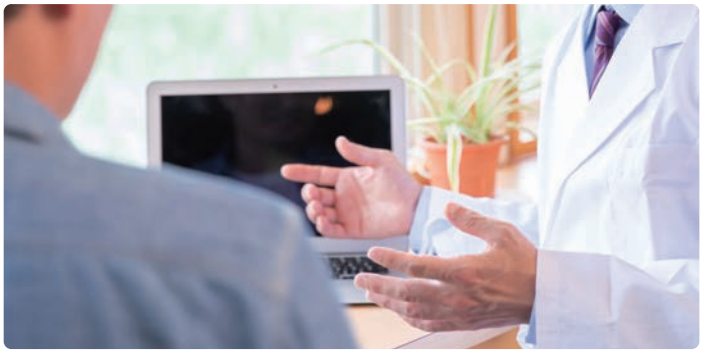
ALC-ZEROⅡ

霧の中を歩むような、震える日々

「あの時は、本当に怖かったんです……」一人暮らしを始めた36歳の長男。ある朝、お母様が目にしたのは、彼の車の左前方に刻まれた、生々しく見覚えのない傷跡でした。「どこで、何にぶつけたの？」そう問いかけても、息子さんはただ困惑したように俯き、「分からない」と繰り返すばかり。その言葉は、お母様の胸に鋭い予感となって突き刺さりました。それからの一ヶ月、お母様の時間は止まったままでした。
彼が通ったであろう夜道を、祈るような心地で、何度も、何度も、歩きました。道端に車の破片が落ちていないか、誰かの家の生垣がなぎ倒されていないか。そして何より、どこかに「人」が倒れていた形跡はないか……。「もし、知らないうちに誰かを傷つけてしまっていたら」
最悪の事態を想像しては打ち消す、終わりのない自問自答。ニュースで事故が報じられるたびに心臓が跳ね上がり、夜も満足に眠れない日々が続きました。ようやく届いた警察からの連絡。事故の場所は、深夜の商業施設の駐車場でした。 防犯カメラが捉えていたのは、静まり返った深夜の闇の中、車が駐車場の手すりに接触した瞬間の映像。
「人じゃなくて、物で済んだのなら……。場所が分かって、本当に、本当に気が楽になったんです」提示された賠償額は、160万円。金銭的には決して小さくない痛みでしたが、お母様にとっては、何万回も繰り返した「もしも」という恐怖から解放された、救いの数字でもありました。
崩れ落ちるような安堵とともに、お母様は現実という波と、改めて向き合い始めました。もう二度と、あんな思いはさせたくない。あんな思いをしたくない。その切実な願いが、アルコールインターロックという「確かな光」へと繋がっていったのです。

30年目に出会った、生きづらさの「理由」

息子さんは、30歳を過ぎてから自ら病院の門を叩きました。社会に出て、どれだけ懸命に働いても、なぜか自分だけが空回りしてしまう。
「なぜ、普通にできないんだろう」その問いに応え、自分のなかに渦巻く「生きづらさ」の正体を知りたかったのです。下された診断は、ADHD（注意欠如・多動症）とアスペルガー症候群。
「男の子だから、少し腕白で元気なだけだと思っていたんです。まさか、あの子の行動すべてが病気の症状だったなんて……」
お母様は、幼い日の息子さんの姿を幾度も、幾度も思い返しました。活発に動き回る姿も、一つのことに没頭して呼びかけに気づかない様子も、当時はただの「個性」だと信じて疑わなかったのです。
社会に出てから、彼は幾度となく壁にぶつかりました。言葉の裏にあるニュアンスが読み取れない、急な段取りの変更にパニックになる、一度集中すると周囲の状況が一切入らなくなる。
「もっと早く気づいてあげていれば、あの子はもっと楽に生きられたのではないか」そんな静かな後悔が胸を締め付けました。しかし、お母様はその痛みを、少しずつ「今の息子」を丸ごと受け入れる強さへと変えていきました。
現在の職場は6社目。上司からの厳しい叱責や不誠実な対応に晒されながらも、彼は1年半もの間、必死に踏ん張っています。かつて処方された薬が体に合わず、食欲を失い、痩せ細っていく息子さんの姿を見て、お母様は決断しました。今は薬に頼るのではなく、月一回の通院で医師と対話し、自分の心と向き合う道を選んでいます。



※写真はイメージです

家庭内では、しっかり者の妹さんたちがお兄ちゃんを支える心強い味方です。「お母さん、過保護だよ」と時に厳しく言いながらも、誰よりも早くお兄ちゃんの異変に気づき、お母様へ繋いでくれます。
自分の弱さを認め、治療に通い、厳しい環境で耐え続ける息子さん。
「あの子、自分は病気だからって隠さずに立ち向かっているんです。本当に、立派だと思うんですよ」
お母様の言葉には、後悔を通り抜けた先にある、息子さんへの確かな敬意が宿っていました。

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

ストレスの海と、「お守り」としての存在

今の職場は、息子さんにとって決して穏やかな場所ではありません。金型を加工する鋭利な刃物を扱う、常に緊張を強いられる現場。そこで彼は、日々繰り返される上司からの厳しい叱責に晒されています。
「なぜもっと手際よくできないんだ」「お前は病気なんじゃないか」
そんな言葉を投げつけられるたび、彼は反論することもできず、ただ石のように固まって耐えることしかできませんでした。ある日、作業中に左手の中指を深く切る怪我を負いました。溢れ出る血を前に、周囲が救急車を呼ぼうとしたその時、上司が放ったのは「俺の管理責任を問われ、点数が下がるからやめてくれ」という言葉でした。
結局、適切な処置が遅れ、傷口の治りも遅延してしまいます。それでも「早く治せ」と急かされる日々。「そんな不信感の募る場所で、あの子は一年半も、ずっと一人で耐えてきたんです」。そんな行き場のない、澱(おり)のようなストレスが、彼を「夜の街」へと向かわせました。
彼にとってのお酒は、単なる嗜好品ではありませんでした。一人でのれんをくぐり、カウンターで知らない誰かと交わす、名前も知らない間柄ゆえの「深入りしない、けれど温かな会話」。仕事の段取りや人間関係に縛られないその時間は、彼にとって唯一の息継ぎであり、社会という荒波の中でのかけがえのない休息だったのです。「はしご酒をして、いろんなお店を回るのが楽しみだったみたいで。そこでお喋りするのが、彼なりのストレス発散だったんでしょうね」

しかし、その束の間の解放感が、時に「運転して帰れるだろう」という危うい判断を招いてしまいました。一人暮らしという誰の目も届かない環境が、その甘えを加速させていたのかもしれません。そんな、いつ崩れてもおかしくない危うい日常に、一つの確かな「光」が灯りました。

アルコールインターロック。

「これが付いているだけで、本当に、本当に気が楽になりました」とお母様は深く頷きます。
ある月曜の朝、前夜のお酒がわずかに残っていて、エンジンがかからなかったことがありました。以前ならパニックになっていたかもしれません。けれど彼は、機械が示した客観的な事実に憤る代わりに、静かに駅へと歩き出し、電車で出勤しました。
アルコールインターロックは、感情を交えず、ただ中立に「今はダメだよ」と示してくれます。それが、息子さんの「飲酒運転を絶対にしない」という誇りを守り、お母様の眠れぬ夜を終わらせる、最後の一線となったのです。

未来へ繋ぐ、優しい約束

「私はいつか、あの子より後に死にたい……。それが私の、一番の願いなんです」それは、親としての、あまりに切実な祈りです。自分が元気なうちに、彼が一人になっても迷わずに済む「安心の仕組み」を整えてあげたい。
週に一度、実家に帰ってくる息子さんに手渡す5,000円(現金3,000円とPayPay2,000円)の生活費。彼はその小さな約束を、今も大切に守っています。自分の衝動性を自覚し、お母様の深い愛に甘えながらも、彼は今、必死に自分の足で立とうとしています。
以前、お父様(義父)が飲酒運転の末に事故を起こし、誰にも言えぬまま翌朝亡くなってしまったという悲しい記憶もお母様の中にはありました。だからこそ、息子さんにはそんな悲劇を繰り返させたくない。その強い想いが、今の見守りを支えています。

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

User Report ユーザー レポート

ゼロ
0の証明

個人

信じるということ

「あの子は、本当はとても優しくて、真面目な子なんです」
お母様の語る物語は、あきらめではなく、確かな「信頼」の灯火で結ばれました。アルコールインターロックは、ただの機械ではありません。
それは、親子が明日も変わらず「おはよう」と言い合えるための、静かな、けれど揺るぎない約束の証。
今日も、息子さんの車のエンジンは、お母様の祈りを乗せて、清らかな呼吸とともに始まります。

※写真はイメージです

編集後記　～生きづらさを抱えるご家族へ～

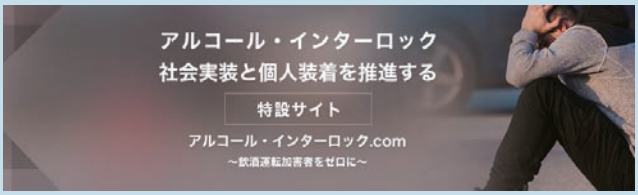
特性ゆえの衝動やストレスから、お酒に逃げてしまう……。その苦しさを、どうかご家族だけで背負い込み、自分を責めないでください。
私たちが目にした「アルコールインターロック」という選択。
それは単なる監視ではなく、本人の誇りを守り、家族が明日も笑うための「静かな祈り」でした。仕組みに頼ることは、諦めではありません。
それは、あなたが「叱る役」を卒業し、心から「信じて見守る家族」に戻るための、最も愛情深い解決策です。
その優しいまなざしが、いつか確かな自信に変わる日まで。私たちはこの装置を通じて、皆さまと共に歩み続けたいと願っています。

本資料に関するお問い合わせや、導入事例の詳細については、
いつでもお気軽にご相談ください。

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

取材ご協力

家族を守る方法の手段として、
アルコール・インターロックを導入されたYさんご一家



東海電子WEBサイト
【アルコール・インターロック.com】
https://alcohol-interlock.com/

LINE 公式アカウント

大切な人の飲酒運転で悩まれていたら…

@700xyfip

いつでも LINE で ご相談ください！